

氷釈の章

尾池和夫選

2025年9月号

霞袂集

寄り来るは鹿の子ばかり昼餉どき
発ちてすぐ馬の糞する賀茂葵
大夏野未踏といふは美しく
噴水のやむ時われに返るとき
背戸の山暮れて明るき栗の花
夏館梁に手斧のはつり跡

尾池葉子
大島幸男
長野眞久
三和幸一
原 稔
岡橋啓二

氷凌集

一瞬の当り山女の流し釣
神山に夏雲流れ社家の町
梅雨明や夫持ち歩く虫めがね
八十年今も戦後や沖縄忌
剪り詰めし木々の勢ひ梅雨の蝶
草むしり後ろ後ろへ草を積む

大野邦夫
竹中教子
吉田恭子
重富國宏
羽鳥正子
酒井富子

氷釈の章

尾池和夫選

2025年8月号

霞袂集

水浴びの水散らさるる鵜小屋より
粽結ふ紐は谷間の狸蘭
春三月月その後の能登に二泊して
貼紙の増ゆる釣具屋夏に入る
鬼おこぞ背鰭を外し売られけり
ずざずざと麒麟の走る立夏かな

尾池葉子
大島幸男
長野眞久
原 稔
余米重則
大口彰子

氷凌集

曇天や一枚着込む田植どき
海に沿ふローカル線へあいの風
武蔵鎧の仏炎苞や初夏の雨
泥んこの五年一組田植中
間合良く手旗信号日の盛
草茂る十字架隠れある墓石

益子桂子
大野邦夫
西村みゑ子
重富國宏
渋谷啓子
酒井富子

氷釈の章

尾池和夫選

2025年7月号

霞袂集

花冷の正午を刻む時計台
桜散る集会場の竹箒

尾池葉子
大島幸男

さめざめと花散り戦後八十年
うぐひすの一声あとは風の音
囀や竹炭の窯修理中
花曇地震計おく時計台

長野眞久
三和幸一
伊藤武敏
古川邑秋

山茱萸の花や名古屋の滝の跡
曲水の宴や羽觴揺れ巡る
霾や遠嶺へぐいと鋏をふる
伐採地わらび浄土となりけり
つばくらめ空の直線自在なる
日を弾く白亜紀層へ春の潮

氷凌集
城島千鶴
西五辻芳子
吉田多々詩
遠藤長代
佐藤美智子
鴻坂佳子

氷積の章

尾池和夫選

霞袂集

2025年6月号

春雨や霰こぼしに音の消え
急がず休まず貸農園の春の色
からからと風を喜び花馬酔木
遊ぶ子の影やはらかし水温む
木屑飛ぶ鑿の一撃冴返る
中庭に人を待つ椅子春の昼

尾池葉子
大島幸男
長野眞久
原稔
余米重則
大口彰子

戸袋の中の脈はふ雀の巢
卒業の同期肩組み周航歌
立ち寄りし湖北の味の鮎なます
虎杖を折れば子供ころの音
つちふるや力の限りドラ打つ子
満州はわがふるさとや鳥帰る

氷凌集
渋谷啓子
重富國宏
吉田多々詩
大野邦夫
西村みゑ子
木村静子

氷積の章

尾池和夫選

霞袂集

2025年5月号

かすかなる音にうすらひ揺らぎけり
斎場一夜に積もる春の雪
杉山に杉の香籠る二月かな
船を待つ驛場の台車春寒し
乙巳の縁起物選る達磨市
行く先は西湖の畔柳絮とぶ

尾池葉子
大島幸男
長野眞久
余米重則
伊藤武敏
四宮陽一

美しとおもふ凶器や軒氷柱	羽鳥正子
初午の御下がりの鯛みづみづし	城島千鶴
梅月夜天神さんの帰り道	重富國宏
小さき影とらへきれずや木の根明く	益子桂子
古枝の余力ありけり茨の芽	渋谷啓子
老ゆること亦よきかなと花を待つ	服部喜美子

氷釈の章

尾池和夫選

2025年4月号

寒晴や京を南へ出で来れば	尾池葉子
托鉢の笠深くする虎落笛	大島幸男
冬の霧大和も端の生駒谷	長野眞久
みづうみのあるが誇りや初景色	原稔
松過の神鶏かくもよく鳴けり	古川邑秋
いつの間に群はづれしや白兔	大口彰子

霞袂集

大寒や工場の吐く水蒸気	佐藤美智子
歳徳棚正して拝む三世代	城島千鶴
一隅を照らす灯のゆれ初比叡	竹中教子
麻痺の手に手仕事遠し毛糸玉	遠藤長代
一頻りにぎはふ地鳴き日脚伸ぶ	羽鳥正子
待合すスイッチバック山眠る	川内一浩

氷凌集

氷釈の章

尾池和夫選

2024年3月号

闇へ朝しんしんと押す霜のこゑ	尾池葉子
休みつつ歩む杖なり冬木の芽	大島幸男
髭すこし伸びたる心地焚火果つ	長野眞久
鯛焼の生きてをるぞと持ち帰る	原稔
風呂吹や古びし椀の輪島塗	余米重則
うたた寝の母やはらかし枇杷の花	大口彰子

霞袂集

咳き込めば母のいたはり襖越し	氷凌集
風神の袋の破れ空つ風	重富國宏
	遠藤長代

角刈りの生垣朝の霜の艶
干菜吊る上州の風いただきて
糖度計のびびとよき音冬りんご
冬鷺の蓑毛乱れてゐたりけり

佐藤美智子
益子桂子
真下章子
城島千鶴

氷釈の章

尾池和夫選

霞袂集

2024年2月号

水を出て石を動かず穴惑
刈株のしひなに風の冬めきぬ
百三十七億年後の花八つ手
初霜や僅かに膨れルーム層
日没の光の名残石路の花
冬空へクレールン迫る造船所

尾池葉子
大島幸男
長野眞久
余米重則
四宮陽一
大口彰子

山裾の日を拾ふごと冬わらび
外つ国を右隻の流転金屏風
石けりの石の飛びすぎ石路の花
柚子は黄に水尾の里の御陵道
明日伐ると決めてしみじみ散紅葉
岳はまだ岩に日のある夕紅葉

氷凌集
西村みゑ子
羽鳥正子
佐藤美智子
重富國宏
渋谷啓子
遠藤長代

氷釈の章

尾池和夫選

霞袂集

2024年1月号

らしからぬ粒立つ雨に火恋し
秋深しジビエの店に鹿の角
忌を修すところに白き秋の薔薇
落人の村は湖底に水澄めり
金木犀鯖街道ははや闇に
蓑虫のどれも短く風叩き

尾池葉子
大島幸男
長野眞久
原 稔
四宮陽一
大口彰子

割るるまで鴉が落す鬼胡桃
引算に指貸してやる秋麗ら
氷河湖の藍の深まり鳥渡る
空う元氣出してもひとり夜食摂る
秋蝶に花々小さくなつて来て

氷凌集
渋谷啓子
羽鳥正子
鴻坂佳子
川内一浩
佐藤美智子

新聞をきちんと畳み星月夜

服部喜美子